

研究主題

# 未来を拓く国語教育の創造

—評価活動の充実を通して、学びの質を高める単元づくり—

言語部 研究主題

言葉のよさに気付き、親しみ、日常生活に生かす単元づくりと評価

## 第5学年国語科学習指導案

単元名

「工夫された表現をもとに登場人物の心情を想像して読もう（仮）」

学習材名「いつか、大切なところ」（教育出版 5年上）

日時：令和4年2月18日(金) 5校時

児童：文京区立千駄木小学校 第5学年1組 39名

担任：文京区立千駄木小学校 主幹教諭 多田 亮介

指導者：杉並区立八成小学校 主任教諭 岡崎 智子

### 1 単元の目標

- (1) 語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。〔知識及び技能〕(1)オ
- (2) 「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)イ
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

### 2 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	① 語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ)	① 「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ)	① 進んで登場人物の心情について描写を基に捉え、学習課題に沿って読み取ったことを文章にまとめようとしている。

### 3 単元構想

#### (1) 児童について（児童観）

本学級は、読むことの学習を好む児童が多い。読むことの学習では、初発の感想や疑問を基に自分たちで学習課題を立て、文章を読んだり友達と話し合ったりしながら解決を図るという経験を重ねてきている。

文学的な文章の学習において、「なまえつけてよ」では人物相互の関係の変化や中心人物の心情の変化、「たずねびと」では中心人物の心情の変化、時間と場面の移り変わりや情景描写を意識して読んだ。

本単元を行うにあたり、国語科の学習や言葉に関する意識調査を行った。結果は以下のとおりである。

(令和3年12月23日実施 37名 欠席2名)

質問	児童の回答	人数(割合※小数第1位四捨五入)
①国語科の学習は好きですか。(選択式)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好き</li> <li>・どちらかといえば好き</li> <li>・どちらかといえば好きではない</li> <li>・好きではない</li> <li>・無回答</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>12名(33%)</li> <li>13名(36%)</li> <li>6名(16%)</li> <li>4名(10%)</li> <li>2名(5%)</li> </ul>
②国語科では、どの学習が好きですか。(選択式・複数回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語文を読む学習</li> <li>・説明文を読む学習</li> <li>・スピーチ、話し合い、発表などの話すこと・聞くことの学習</li> <li>・文章を書く学習</li> <li>・音読の学習</li> <li>・言葉についての学習</li> <li>・漢字についての学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>26名(70%)</li> <li>12名(32%)</li> <li>14名(38%)</li> <li>11名(30%)</li> <li>3名(8%)</li> <li>9名(24%)</li> <li>13名(35%)</li> </ul>
③物語を読むときに意識していることは何ですか。(記述式・複数回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の場面ごとの心情</li> <li>・登場人物の心情の変化</li> <li>・人物像</li> <li>・場所</li> <li>・時</li> <li>・登場人物の設定(相互関係も含む)</li> <li>・作者(筆者)の考え</li> <li>・登場人物の行動</li> <li>・登場人物の役割</li> <li>・時代背景</li> <li>・物語の成り行き</li> <li>・中心人物の変化</li> <li>・出来事のきっかけ</li> <li>・その他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>12名(32%)</li> <li>11名(30%)</li> <li>6名(16%)</li> <li>6名(16%)</li> <li>6名(16%)</li> <li>4名(10%)</li> <li>4名(10%)</li> <li>3名(8%)</li> <li>2名(5%)</li> <li>2名(5%)</li> <li>2名(5%)</li> <li>1名(3%)</li> <li>1名(3%)</li> <li>11名(30%)</li> </ul>
④登場人物の気持ちはどんなところから分かりますか。(記述式・複数回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の言葉</li> <li>・登場人物の行動</li> <li>・登場人物の様子</li> <li>・登場人物の心情を表す言葉・表現</li> <li>・本文</li> <li>・情景</li> <li>・表情</li> <li>・周囲の人物との関わり</li> <li>・出来事</li> <li>・もし自分だったら</li> <li>・その他(人物像・+-・場所・天気 of 比喩 等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>20名(54%)</li> <li>13名(35%)</li> <li>6名(16%)</li> <li>6名(16%)</li> <li>4名(10%)</li> <li>4名(10%)</li> <li>3名(8%)</li> <li>3名(8%)</li> <li>2名(5%)</li> <li>2名(5%)</li> <li>8名(22%)</li> </ul>

意識調査の結果から、国語科の学習に対し約70%の児童が「好き・どちらかといえば好き」だと感じている。国語科の学習を「好きではない・どちらかといえば好きではない」と答えた約30%の児童でも、どのような学習が好きかという質問に対しては、いずれかの項目には丸を付けており、苦手と感じる児童でも楽しいと感じる経験があることが分かる。

国語科の学習の中でも、物語文を読むことが「好き」と答えた児童の人数はクラスの70%にあたる。説明文を読むことが「好き」と答えた児童も30%を超えており、読むことの学習を「好き」と感じている児童が多いことが分かる。スピーチや話し合いなどの話すこと・聞くことの学習を「好き」と答えた児童も38%と多い。しかし、言葉についての学習を選んだ児童は24%と他と比べてやや少なく、言葉の学習をしていることをあまり意識していないことがうかがえる。

「登場人物の気持ちはどんなところから分かりますか」という問いに対し、19種類もの回答があった。人物像や場面、＋や－の部分等の記述もあり、幅広い視点で物語を読み、登場人物の心情を捉えていることが分かる。中でも登場人物の言葉は54%、行動は35%と高かった。一方、心情を表す言葉・表現は16%、情景は10%とやや少ない。比喩と答えた児童は3%であった。「情景描写、比喩などに着目することで登場人物の心情を捉えることができる。」と意識している児童は、まだそれほど多くないことが分かる。

以上のような実態から、心情を表す表現に着目して読み、中心人物の心情や心情の変化を捉える力をさらに伸ばす学習を行いたいと考えた。

## (2) 学習材について (学習材観)

### ① 「いつか、大切なところ」

学習材「いつか、大切なところ」は、情景描写や対比などの表現によって、中心人物である亮太の心情の変化を読み取りやすい物語である。

登場人物が同世代で身近な設定であることから、児童が共感したり感情移入したりしやすく、自分の生活経験と結び付けて読むことができる。また、題名に未来を示唆する言葉「いつか」が含まれており、自然と亮太のこれからについて思いを馳せることができるようになっていく。

亮太の心情は、明暗様々に移り変わっていく。情景描写や心情表現、対比など、文章中の表現と心情を結び付けて読み、亮太の心情の変化を捉えることができる物語である。そのため、児童が、心情を表す表現を基に亮太の心情を読み、心情の変化を捉えるのに適した学習材であると考えた。

「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編」には、「読むこと」における構造と内容の把握の指導事項として、下のよう示されている。指導事項と心情を表す表現を照らし合わせると、①は低学年、②は中学年で学習した既習事項である。高学年では①②に加え③～⑥に着目して読むことができるようにしていく。

「小学校学習指導要領国語編」 C(1)イ構造と内容の把握 (文学的な文章)指導事項	物語を読む際に活用する心情を表す表現
第1学年及び第2学年 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。	①登場人物の言動(会話・行動)
第3学年及び第4学年 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。	②心情表現(わくわく・どきどき 等)
第5学年及び第6学年 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。	③比喩表現(ぬれた服を着たように 等)
	④慣用語(おねがはずんだ 等)
	⑤対比(電車は軽やかなリズムで電車の音も単調で 等)
	⑥情景描写(くすんだ色の景色 等)

本学習材では、態度、表情、しぐさ、会話などの心情を表す直接的な表現だけでなく、比喩表現、慣用語、対比、情景描写などの暗示的な表現も多く使用されている。

そこで、児童が心情を捉える際に着目させたい表現を以下のように整理した。

場面	場面の様子	亮太の心情を表す表現	表現の効果
1	ひと月後、亮太が前の学校の友達に会いに行く場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タタン、タタン、タタン。</li> <li>タタン、タタン、タタン。</li> <li>電車は軽やかなリズムでゆれている。</li> <li>(4場面冒頭部との対比)</li> <li>・常夜灯のたよりない光(比喩的な表現)</li> <li>・いや、「行く」じゃなくて、「帰る」だ。</li> <li>・自分の学校</li> <li>・おねがはずんだ。(慣用語)</li> <li>・まどのそとがまぶしい。(情景描写)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よろこび</li> <li>・うれしさ</li> <li>・期待感の高まり</li> </ul>

2	前の学校の友達と再会し、遊ぶ場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うれしくておねがいっぱいになった。(慣用語)</li> <li>・いつのまにか森田君もそばに来て、話を聞いている。</li> <li>・なんだかおねにすき間風が入ったような変な感じだ。(比喩的な表現)(慣用語)</li> <li>・森田君も、またいっしょだ。</li> <li>・亮太も笑いながら、おねの中で冷たい風がふいている気がした。(慣用語)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再会のよろこび</li> <li>・期待感とのずれ</li> <li>・違和感</li> </ul>
3	帰る時間になった場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駿は、森田君の家に行くらしい。</li> <li>・ぬれた服を着たように体が重かった。(比喩的な表現)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ちこむ</li> <li>・疎外感</li> </ul>
4	帰りの電車の場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タタン、タタン、タタン。</li> <li>電車の音も単調で、ちっともはずんでなどいない。(1場面冒頭部との対比)</li> <li>・くすんだ色の景色が流れている。(情景描写)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・孤独感</li> <li>・寂しさ</li> </ul>
5	自転車に乗った女の子に会った後の場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今、知らなくてもそのうちにわかる。</li> <li>・今の学校も悪くない。そのうちに慣れるだろう。</li> <li>・いつか新しい学校を自分の学校だと思える日が来るかもしれない。</li> <li>・いつかこの町を自分の町だと、迷わず言う日が来るかもしれない。</li> <li>・まだ明るい大きな空が広がっている。(情景描写)</li> <li>・一筋の飛行機雲が、まっすぐにのびていた。(情景描写)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望</li> <li>・期待</li> <li>・新たな気付き</li> <li>・新たな出発</li> </ul>

## ②全文シート

物語の全文と行番号が書かれているシートを活用し、心情を表す表現に着目したり物語全体を俯瞰して見たりすることができるようにした。全文が一度に目に入るシートにすることで、亮太の心情の変化と表現の工夫を結び付けやすいと考えた。また、行番号を付けることで、話し合いの際にどの叙述を根拠にしているのかを共通理解しやすくした。

## (3) 単元について(単元観)

本単元では、心情を表す表現に着目して読むことで、描写を基に登場人物の心情の変化を捉えたり、表現の効果を考えたりする力を育むことを目指した単元である。登場人物の心情の変化を捉えるために様々な表現に着目することで、表現の効果に気付き、自分も使ってみようという思いを高めたい。

本単元における「言葉のよさ」を、「①心情を表す様々な表現に着目して読むことにより、人物の心情をより深く想像できること」「②表現に活用することで自分の考えをより明確に伝えることができること」の2点と考えた。学習を通してこれらの「言葉のよさ」を児童が実感できるようにしていきたい。

学習材「いつか、大切なところ」には中心人物である亮太の過去と現在が書かれている。物語の最後の一文は、亮太の未来を予想させる情景描写になっている。そこで、単元の導入では、初発の感想を基に児童とやり取りをしながら「亮太のこれからを考えよう(仮)」という学習課題を立て、単元の終末に物語の続き話を書くという言語活動を設定する。さらに、初発の感想を基に「みんなで話し合ってみよう」として「①亮太の心情はどのように変化するのか(仮)」「②亮太にとって大切なところとはどこか(仮)」という読みの課題を設定する。

その後、読みの課題①②を解決するために言葉に着目し表現の効果も考えながら中心人物である亮太の心情やその変化を読み取っていく。話し合いでは、どの言葉に着目してそう感じたのかというように考えの根拠となる叙述を共有することも大切にする。その中で、情景描写や慣用語、比喩や対比などの表現からも心情が捉えられること、それらを用いる効果についても考える。

○年後(○か月後)の亮太の様子を想像して続き話を書くためには、物語の設定や人物相互の関係、心情などを生かす必要がある。文体や表現などにも目を向け、作品世界からそれないようにする必要も出て

くる。単元の終末では、「○年後（○か月後）、○○をする亮太」（例「1年後、前の学校に再び行く亮太」「1年後、児童センターで卓球をする亮太」という場面設定のもと、200～500字程度の短い続き話を書く。亮太の心情やその変化を読む際に学んだ心情を表す表現を生かして書くことで、表現の工夫や効果への意識を高め、言葉を使うことに自覚的になると考える。

単元終了後は、読むことの学習の中で「登場人物の心情を捉える際に様々な表現に着目して読んでいる姿」や「表現の工夫や効果に気付いて読んでいる姿」が現れることを期待する。また、日常生活において「表現に関心をもって語彙を増やしたり、表現を工夫して書こうとしたりする姿」も期待したい。

#### 4 研究主題に迫るために

##### (1) 学びの質の向上を図る単元の工夫

###### ①言葉への気付きが「読むこと」に生きる単元構成

###### ア 三段階の単元構成

単元全体を以下の三つの段階で構成した。

- 1 学習内容への方向付けをしながら学習材と【出合う】段階
- 2 学習材を繰り返し読んで考える【親しむ】段階
- 3 読んで考えたことを表現活動につなげる【生かす】段階

###### 【出合う】学習材の題名に着目して物語を読み、感想を基に学習課題を考え、学習計画を立てる。

学習材の題名に着目させ、「いつか、大切なところ」の意味を考えることを通して、中心人物にとっての「いつか」「大切なところ」とはどういうことかを考えながら読み進めていけるようにする。題名の言葉に着目することは、中心人物の心情の変化を捉えるという学習の中心となる内容を意識することにつながる。その後、初発の感想を基に児童とやり取りをしながら学習活動、言語活動、読みの課題を設定し、学習計画を立てたり、単元名を付けたりする。ここでは、児童の感想を大切にし、児童が自ら解決したいという意欲をもって学びに向かえるようにする。

###### 【親しむ】心情を表す表現に着目しながら中心人物の心情を想像し、心情の変化を捉える。

児童が叙述を基に中心人物の心情やその変化を想像できるように、物語の全文が書かれたシート（全文シート）を使い、着目した表現と読み取った心情、表現と表現とを関連付ける活動を行う。まずはそれぞれの児童が読み取ったことを自分なりの方法で表現する。例えば、全文シートの表現にサイドラインを引き、そこから想像した心情を書き込む方法や、関連する表現を矢印等を用いて結び付ける方法、ワークシートに根拠となる表現を抜き出して書き、関係を図で表す方法などが考えられる。どのような方法であっても大切にしたいことは、中心人物の心情や変化と、その根拠となる表現を明らかにすることであり、それを全体で共有していく第4時につなげていく。ここでは、児童が着目した表現を教師が整理したり価値付けたりすることにより、児童自身の思考の過程や言葉への気付きを自覚できるようにすることを大切にす。中心人物の心情とそれを表す表現の効果を話し合うことを通して、表現に着目することで物語を読み深められることに気付けるようにしたい。

###### 【生かす】心情を表す表現を活用して物語の続きを書き、単元の学習を振り返る。

「親しむ」段階で学んだ心情を表す表現を活用して、「いつか、大切なところ」が表す中心人物の未来を想像し、物語の続き話を書く。さらに単元の学習を振り返り、工夫された表現に着目して登場人物の心情を読むことのよさや、物語での表現に対する自分の捉えの変容についてまとめる。表現の工夫や効果への意識を高め、言葉を使うことに自覚的になることを期待したい。

###### イ 身に付けさせたい知識・技能の明確化

児童に読みの力を付けるためには、その根本として言葉の力を身に付けさせることが不可欠であると考え。思考力・判断力・表現力等を使って文章を読むときに生きて働く言葉の力（知識・技能）をしっかりと身に付けさせるため、児童の言葉への気付きを大切にしたい。そして、児童の言葉への自覚を高め、一人一人が言葉を意識的に使えるようにしていきたい。そのために、児童に身に付けさせたい知識・技能を単元計画の中に明確に位置付け、それを意識して指導できるようにする。

	出会う	親しむ				生かす
	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時
学習活動	物語を読み、感想を基に学習課題を考え、学習の見直しをもつ。	心情が表れている表現に着目し、中心人物の心情の変化を捉える。		情景描写や対比、比喩や慣用表現に着目し、心情の変化を捉える。	心情の変化を基に、中心人物のその後がどうなっていくかを考え、学習した表現を生かして書く。	単元の学習を振り返り、表現の効果について考える。
知識技能		(1)言葉 オ語彙 語句と語句との関係 類義語・対義語 等 語句の構成 慣用語  (2)情報 ア情報と情報との関係 原因と結果 イ情報の整理 情報と情報との関係付けの仕方 図などによる語句と語句との関係の表し方			(1)言葉 オ語彙 語感や言葉の使い方 適否 (2)情報 イ情報の整理 情報と情報との関係付けの仕方 類推する	(1)言葉 オ語彙 語彙を豊かにする

具体的には、以下のような点を意識して指導する。

指導事項	具体的な内容
(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項 オ語彙	○心情を表す様々な語句について、似た心情を表す言葉、反対の心情を表す言葉に気づき、関係付ける。 ＜語句と語句との関係＞ 【第2～4時】 ○慣用語に着目して心情を捉える。 ＜語句の構成＞ 【第2～4時】 ○どのような表現を使うことが適切か考えながら続き話を書く。 ＜語感や言葉の使い方に対する感覚＞ 【第5時】 ○心情を表す様々な表現があることやそれらに着目して読むことにより人物の心情をより深く想像できること、表現に活用することで自分の考えをより明確に伝えることができることを意識する。 ＜語彙を豊かにする＞ 【第6時】
(2) 情報の扱い方に関する事項 ア情報と情報との関係 イ情報の整理	○出来事（原因）と中心人物の心情（結果）や、出来事（原因）をきっかけに中心人物の心情がどう変化したか（結果）を捉える。 ＜原因と結果＞ 【第2～4時】 ○「表現と心情」「前半の心情と後半の心情」などを関連付ける。 ＜情報と情報との関係付けの仕方＞ 【第2～4時】 ○「親しむ」段階で読み取った物語の設定や人物相互の関係、心情などから、未来の中心人物の様子を類推する。 ＜情報と情報との関係付けの仕方＞ 【第5時】

児童が文章を読む上で、表現に着目し、言葉への自覚を高めていけるようにするためには、文学的な文章の学習においても、「情報の扱い方に関する事項」に関わる内容を意識して指導していくことが必要である。文学的な文章における「情報」とは、叙述である。叙述を基に登場人物の心情の変化を捉えたり、表現の効果を考えたりすることで、言葉に着目して読む力を育てていくことができる。単元全体を通して、情報（叙述）と情報（心情）とを関連付けて考えることを大切にしていく。様々な叙述に着目し、そこから心情を捉えていくことで、より深く文学的な文章を読むことができるようになることを考えた。

## ②豊かな語彙の拡充

ア 「いつか」「大切なところ」に着目する

題名は、「いつか」という未来を表す言葉と、「大切なところ」という過去の経験を基にした言葉とが組み合わせられている。未来を表す言葉と過去や現在に関わる言葉とが組み合わせられている違和感に気付かせることで、語感や言葉の使い方に関する感覚を高めたい。また、そのような言葉が使われている題名に関心をもたせ、中心人物の大切なところを意識して読むことにつなげたい。

イ 中心人物の心情を表す表現（情景描写、対比、比喻、慣用語など）

中心人物の心情は、登場人物の会話や言動、「わくわく」「びっくり」といった直接的な表現だけでなく、比喻表現や慣用語、対比、情景描写など間接的な表現からも捉えることができる。クラス全体で中心人物の心情や根拠となった表現を話し合うことで、自分では気付かなかった心情を表す表現にも気付けるようにする。児童が気付いた表現を、教師が板書で整理したり価値付けたりすることで、表現の効果を意識させ理解を確かなものにしていく。

ウ 心情を表す表現を使用

中心人物の心情を捉える際に着目した表現を生かして、物語の続き話を書く。表現を実際に使ってみることで、表現のよさに気付いたり効果を意識したりすることにつながると考えた。より適切な表現を意識して使うことで、語感や言葉の使い方に関する感覚を豊かにしていく。

③学習の成果物等の活用・共有

中心人物の心情やその変化とそれが分かる表現をまとめる際、叙述と中心人物の心情をつなげて考えることができるようにワークシート（全文シート）を用いる。全文シートは、表現を関連付けたり、中心人物の心情の変化を捉えやすくしたりするために、教材文全体を1枚に表している。児童は、全文シートを用いてそれぞれの方法で読み取ったことをまとめていくが、友達と共有することを通して新たな気付きを書き加えるなど、さらに自分の考えを広げたり深めたりすることができると思う。

(2) 学習改善・授業改善につながる評価活動の工夫

①評価規準、評価方法の明確化

単元構造図に、本単元で求める児童の具体的な姿を示す。総括的評価（記録に残す評価）と形成的評価（指導に生かす評価）、評価方法について、あらかじめ明確にして評価計画を立てることで、学習改善・授業改善に役立つ。

1 単位時間ごとに評価の重点を設定するが、内容のまとまりの中で柔軟に評価していく。

	出会う	親しむ			生かす	
	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時
総括的評価 (記録に残す 評価)		知・技		思・判・表	主体的	知・技
形成的評価 (指導に生かす 評価)	知・技 思・判・表	思・判・表 主体的		知・技 主体的	知・技 思・判・表	思・判・表 主体的

総括的評価（記録に残す評価）だけでなく、形成的評価（指導に生かす評価）も単元構造図に明記し、児童の学習状況を把握する。座席型評価補助簿を用いて前時の目標に達成していない児童を把握し、次時の指導に役立て、支援を充実させる。

②自らの学びを見直し、振り返り、調整するための手だて

第2時では、それぞれが中心人物の心情を表す表現を探し、そこから想像できる心情やその変化を全文シートを用いてまとめる活動を行う。これまでの学習経験から、最初は中心人物の会話や行動や直接的な心情表現しか見付けられない児童もいると考えられる。その後、第3時・第4時とグループや全体での共有を取り入れていくことにより、情景描写や対比、比喻や慣用語などの心情表現にも気付くことができるようにする。そこで児童がさらに気付きを付け足していくことができるようにすることで、自分の変容を実感することができるようにしたい。また、友達との共有を通して付け足した気付きは色を変えて書かせるようにすることで、自己の変容を自覚できるようにした。

毎時間の授業の終わりに学習を振り返る場を設定する。自己評価の観点は、  
 ア：今日の学習を振り返って（分かったこと・考えたこと・表現について 等）  
 イ：後の学習に向けて（やってみたいこと・頑張りたいこと等、学習活動に関すること）  
 の2つとした。児童が、本時の学びを自覚するとともに、毎時間の振り返りを同時に見られるようにすることで、これまでに着目した表現、読みの積み重ねを認識し、学びの変容を自覚できると考える。

(3) 言葉の力の活用を意識した学習活動の工夫

①身に付けた力の単元内での活用

本単元では、「なまえつけてよ」で学んだ中心人物の心情の変化を捉えることや、「たずね人」で学んだ中心人物の心情と情景描写を結び付けて考えることを活用し、中心人物の心情や心情の変化を捉えていく。

「親しむ」段階で学習した中心人物の心情を表す表現を、「生かす」段階の物語の続き話を書く場面で活用できるようにする。学んだことをすぐに活用することで、より確かな学びとなる。

②身に付けた力の単元以降での発揮

本単元で身に付ける「叙述を基に登場人物の心情を捉える力」は、本単元以降の文学的な文章「大造じいさんとガン」の学習や、読書を楽しむことに生かすことができる。また、「表現の工夫に気付く力」は、今後、話すことや書くことなどの表現活動において、比喩や慣用語などを用いて、心情や様子を表現することにつながると考える。

5 単元計画

過程(次)	時	学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
出 合 う	1	<p>物語を読み、感想を基に学習課題を考え、学習の見通しをもつ。</p> <p>①「いつか」「大切なところ」とはどういう意味か考える。</p> <p>②「いつか、大切なところ」を読み、感想を書く。 感想・話し合いたいこと</p> <p>③感想を共有しながら単元の学習課題と読みの課題を考える。</p> <p>【単元の学習課題】 亮太のこれからを考えよう(仮) 【読みの課題】 ア:亮太の心情はどう変化したか? イ:亮太の大切なところはどこか?</p> <p>④単元の学習計画を立て、単元名を付ける。</p>	<p>○「いつか」「大切なところ」の言葉の組み合わせに着目し、中心人物にとっての「大切なところ」を意識して物語を読むことができるようにする。</p> <p>○中心人物の未来に思いを馳せ、単元の学習課題を考えられるようにする。</p> <p>○「みんなで話し合いたいこと」を出し合い、読みの課題をつくる。</p> <p>○やり取りしながら学習計画と単元名を考え、活動の見通しをもつことができるようにする。</p>	
親 し む	2 ・ 3	<p>心情が表れている表現に着目して、中心人物の心情の変化を捉える。(個人)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>読みの課題 ア:亮太の心情はどう変化したか? イ:亮太の大切なところはどこか?</p> </div> <p>①物語の大まかな構造を捉える。</p> <p>②全文を読み、心情を表す表現にサイドラインを引いたり気付いたことを書き込んだりしながら、中心人物の心情や心情の変化を読み取る。 (個人)</p>	<p>○全文シートを配布し、心情が分かると思った叙述にサイドラインを引いたり書き込みをしたり、ワークシートに書きまとめたりしながら読み進め、読みの課題に対する自分の考えをもつことができるようにする。</p>	<p>◆語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。[知・技①]</p>

	<p>③読み取った中心人物の心情や心情の変化を整理する。 (個人・グループ)</p> <p>④自分の考えをまとめる。</p>	<p>○叙述の抜き出し・矢印や吹き出しを活用した書き込み・心情曲線・心情メーターやハートメーターなど、自分で方法を選択して整理することができるようにする。</p>	<p>★全文シート・ワークシート</p> <p>・サイドラインを引いた表現、中心人物の心情の確認。</p>
4 (本時)	<p>情景描写や対比、比喩や慣用語等の表現に着目し、心情の変化を捉える。</p> <p>読みの課題 ア：亮太の心情はどう変化したか？</p> <p>①亮太の心情の変化を大まかに確認する。</p> <p>②どの表現から心情を捉えたのかを出し合う。 情景描写・比喩・慣用語・対比</p> <p>③表現に着目して亮太の心情の変化を話し合う。</p> <p>④読みの課題アに対する、最終的な自分の考えをまとめる。</p>	<p>○どの表現から心情を捉えたのかを共有し、中心人物の心情が様々な表現から読み取れることに気付かせる。</p> <p>○情景描写、慣用語に着目し、対比して書かれていることに気付かせる。</p> <p>○比喩、繰り返し、文末表現にも着目させ、表現の効果を考えさせる。</p> <p>○心情を表す表現に着目して、中心人物の心情を具体的に想像させる。</p>	<p>◆「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。〔思考・判断・表現①〕</p> <p>★発言・全文シート・ワークシートの記述・着目した表現の確認。</p>
5	<p>心情の変化を基に、中心人物のその後がどうなっていくかを考える。</p> <p>読みの課題 イ：亮太の大切なところはどこか？</p> <p>①亮太にとっての「大切なところ」はどこになるのか話し合う。</p> <p>②読みの課題イに対する、最終的な自分の考えをまとめる。</p>	<p>○言葉の意味やイメージから中心人物の心情を想像させる。</p> <p>○表現に着目して心情を読むことで、中心人物の心情の変化が分かることに気付かせる。</p>	<p>◆進んで登場人物の心情について描写を基に捉え、学習課題に沿って読み取ったことを文章にまとめようとしている。〔主体的に学習に取り組む態度①〕</p> <p>★発言、続き話</p> <p>・学習した表現の効果を生かして物語の続きが書かれているかの確認。</p>
生かす	<p>③亮太のこれから(例：1か月後・夏休み・1年後等)を想像し、これまでに学んだ表現の工夫(情景描写・比喩・慣用語・対比等)を活用して続き話を書く。</p>	<p>○読み取った心情の変化から中心人物のその後を予想して書くことができるようにする。</p> <p>○心情の変化を捉える際に着目した表現の工夫を使って中心人物の心情を表現するようにさせる。</p>	

6	<p>単元の学習を振り返り、表現の効果について考える。</p> <p>①書いた続き話を読み合う。</p> <p>②「いつか、大切なところ」に使われていた表現や、表現の効果について振り返る。</p> <p>③単元の学習を振り返り、物語での表現に対する自分の捉えの変容についてまとめる。</p>	<p>○続き話を共有し、中心人物のその後としてふさわしいか、表現の効果はどうかについて感想を伝え合うようにさせる。</p> <p>○情景や心情表現の効果について振り返ることができるようにする。</p> <p>○自分が続きの話を書いた際に、どんなことを意識して中心人物の心情を表したのかを振り返り、言葉を使うということへの意識を高めることができるようにする。</p>	<p>◆語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。〔知・技①〕</p> <p>★発言・ワークシート</p> <p>・表現の効果や言葉の使い方に対する気付きの確認。</p>
単元後	<p>・登場人物の心情を捉える際に様々な表現に着目して読む。</p> <p>・表現の工夫や効果に気付いて読む。</p> <p>・表現に関心をもって語彙を増やしたり、表現を工夫して書こうとしたりする。</p>		

## 6 本時の学習

### (1) 本時のねらい

心情が表れている表現に着目し、亮太の心情の変化を捉えることができる。

### (2) 本時の展開

学 習 活 動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
1 前時までの学習を振り返り、 本時のめあてを確かめる。		
亮太の心情は、どのように変化したのだろうか		
2 亮太の心情の変化を捉える。 (1) 大まかな心情の変化を確認する。(全体)  (2) 読み取った亮太の心情とその根拠となる叙述を出し合う。(全体)  (3) 亮太の心情の変化を書きまとめる。(個人)	○どの表現からそう考えたかを出し合うようにする。 ○心情を表す表現に着目して、亮太の心情を具体的に想像させる。 ○「一筋の飛行機雲が、まっすぐにのびていた。」に着目し、亮太の心情や今後を具体的に想像させる。 ○「はずむ」と「すき間風」を比べ、使われている言葉の意味やイメージから想像するよう促す。 ○「おねがいっぱいになった」と「おねの中に冷たい風がふいている」の表現の効果を考えさせ、「おね」を使って反対の心情が表されていることを確認する。 ○「タタン、タタン、タタン。」の軽やかなリズムと単調なリズムから中心人物の心情が対比して表されていることに気付かせる。	◆「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写（心情を表す表現）を基に捉えている。〔思考・判断・表現①〕 ★発言・全文シート・ワークシートの記述 ・着目した表現の確認  ◇概ね満足できる児童への次時以降の手だて これまでに捉えた中心人物の心情の変化や、心情を表す表現を活用して、続き話を書くよう助言する。  ◇概ね満足できる状況を目指す児童への次時以降の手だて 心情の変化とその根拠となる表現を見付けることができない児童には、四つの慣用語や最後の情景描写に着目して亮太にとっての「大切なところ」を考えるように促す。
3 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	○工夫した表現から中心人物の心情を読むことができることを確かめる。	

## 7 資料

【第5時】亮太のこれからを想像し、これまでに学んだ表現の工夫を生かして続き話を書く。

### 書く際の指導の留意点

- いつ、何をしている場面かを決めてから記述させる。  
例・翌朝、家を出る亮太  
・次の日、登校する亮太  
・一週間後、児童センターに初めて卓球をしに行く亮太  
・半年後、今の学校で友達と遊んでいる亮太  
・一年後、前の町に行く亮太等
- 「いつか、大切なところ」を読むときに意識した表現の工夫と、亮太にとっての大切なところに関する内容を入れて書かせる。
- 「いつか、大切なところ」の文章をベースにして、想定に合わせて書き直してもよいことを伝える。
- 個に応じた支援として、モデル文を見せたり書き出しを指定したりする。

### 続き話の作品イメージ

【次の日、登校する亮太】

次の日、窓から差し込む朝日がまぶしい。前の学校では、亮太の知らない生活が始まっていた。悲しい気分になった。でも、自分もこの町で新しい生活が始まっている。帰り道にそのことに気付けた。

先週末までは学校に行くのにまだちょっと緊張していたけれど、今日はなぜか緊張していない。

「行ってきます。」

自然と大きな声が出て、足取りが軽くなる。誰に話しかけてみようか。そう考えるだけでおねがはずんだ。

「おはよう。」

クラスの誰かが、あいさつをしてくれた。

「おはよう。」

亮太もあいさつを返した。なんだか気持ちがいい。これから、この学校でやっていけそうな気がする。自分は、きつとこの町を好きになっ  
ていけるだろう。そんな気がした。

見上げると、雲一つない青空が広がっていた。

(三二〇字)

【一年後、前の町に行く亮太】

あれから一年、亮太はまた、一人で電車に乗り、前の町へ行く。タタン、タタン、タタン。タタン、タタン、タタン。

電車はあの日と同じように軽やかなリズムでゆれている。亮太はわくわくしながら、電車のリズムに体をゆらししている。まどの外を見ると遠くに、前の小学校のある町の風景が広がっている。空は青くてまぶしい。

「駿たちはどうしているのだろうか。」

考えるだけで、おねがおどった。

約束の校庭に着いた。

「亮太。」

駿と一平と森田君がすぐに気付き、走ってきた。元気そうな三人の姿を見て、亮太はおねをなでおろした。

四人でかくれおにをした。水飲み場のタイル、大きなタブの木。あの頃とちっとも変わっていない。なつかしい。

今では、森田君と駿と一平はすっかり気が合っている。変わらな  
いものもあれば、変わるものもある。亮太はそう思った。…でも、  
ぼくは、ひとりぼっちではないんだ。

亮太にも新しいことがどんどん起きた。新しい友達もたくさんいる。今の学校も悪くない。

この学校の、この町も、俊や一平も大好きだ。

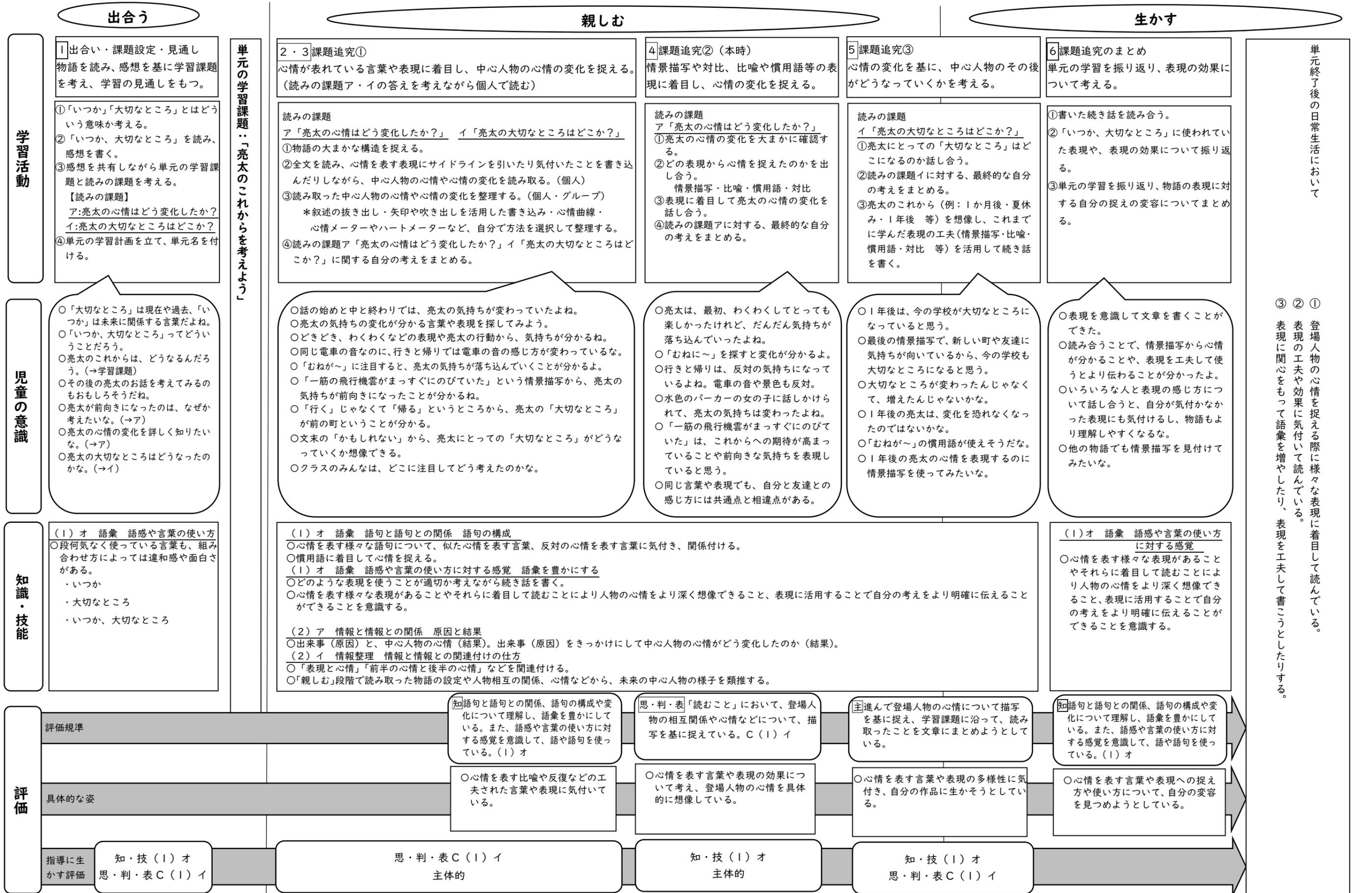
でも、今の学校も、今の町も、剛や准一も大好きだ。

今なら迷わず言うことができる。どちらも大切なところなのだ。

ふと空を見上げると、まだ明るい広い空が広がっている。その中  
を、一羽の鳥がゆうゆうと飛んでいた。

(五三五字)

ねらい：登場人物の心情の変化を捉えるために、様々な表現に着目することで、表現の効果を認識し、自分も使ってみようという思いをもつ。



③ ② ①  
登場人物の心情を捉える際に様々な表現に着目して読んでいる。  
表現の工夫や効果に気付いて読んでいる。  
表現に関心をもって語彙を増やしたり、表現を工夫して書こうとしたりする。